

# 市民のひろば



☎ 857-8585 (住所不要) 市役所秘書課広報係 ☎ 1111  
Eメール hishok@city.sasebo.nagasaki.jp

## おたより コーナー

皆さんからお寄せいただいたお便りをご紹介します。ご投稿いただいた皆さん、ありがとうございました。

### 実家で広報させばを読みました

(福岡市博多区・須田玲子さん)

連休で実家に帰って広報させばを読みました。福岡の広報紙には歴史の話などはあまり載っていないので、極相林の話や歴史散歩など、大変面白かったです。身近にあって普段は気にもかけないものに歴史があると知るの新鮮です。また、福岡のものより、紙がきれいで読みやすく、写真も多く載っているの、読むのが楽しいと思いました。環境保護に関する取り組みなどの紹介があると、より良いと思います。

### (広報係から)

「歴史散歩」のコーナーには、「長年佐世保に住んでいるが、初めて知って興味深かった」などのご感想が多く寄せられています。毎月8ページに掲載していますので、どうぞご覧ください。

市環境部では12月に環境情報紙「エコプレス」(年2回発行予定)を発刊し、広報させばと一緒に各世帯に配布しました。この中に、環境保護に取り組んでいる団体の皆さんをご紹介します。このほか、身近なごみ問題をはじめ、環境についてのさまざまな情報を分かりやすくお伝えしていきたいと思ひます。エコプレスについてのご意見は、環境部総務課にお寄せください。



## 広報 クイズ

今月はクイズを拡大し、クロスワードにしました。はがきに答えと住所、氏名、年齢、電話番号、広報紙へのご意見を書いて、1月23日必着でどうぞ。

### [タテのカギ]

- うそをついたら、千本飲まなければならぬもの。
- 唐子絵で有名な、佐世保の伝統的工芸品は 焼。
- 日曜にミサが行われる場所。
- この世で恐ろしいものは「雷、火事、オヤジ」

1	A	2		3	
6	D				4
				7	C
5					
	B		8		

5. 日本の家では、玄関で脱ぐもの。

### [ヨコのカギ]

- 「しなないと虫歯になるよ」
- 「人の悪 を言っははいけません」
- 国語、算数、 、社会。
- えとで、ねずみの次は?
- お祝いの席に欠かせない魚。

答え: (A、B、C、Dの順)

ヒント: 佐世保のお正月には欠かせません

全問正解者の中から抽選で、今月は10人に図書券を差し上げます。発表は発送をもって代えさせていただきます。

前回の答えは、13 給食 ハウステンボス でした。たくさんのご応募ありがとうございました。

## ご意見有用

市政に対する建設的なご意見を、書面でお願いします。郵便番号、住所、氏名、年齢、電話番号を書き、「ご意見有用」担当あてと明記してください。採用分には図書券を差し上げます。

### Q プラスチック製品もリサイクルに

赤崎町 田中和美さん(30歳)

リサイクルマークは、注意して見るとたくさんあります。私も4月から近所のスーパーへ食品トレーや牛乳パックを出すようにしてから、家から出るごみが少しずつ減ってきました。

プラスチック製品が多いので、ごみとして出すのではなくリサイクルできると、もっとごみも少なくなるのではないのでしょうか。

### A (環境部総務課からのお答え)

プラスチックのリサイクルは、焼却してその熱エネルギーを利用する「サーマルリサイクル」と、素材として再資源化する「マテリアルリサイクル」に分けられます。「マテリアルリサイクル」は、処理に要する手間やエネルギーが大きく、再資源化された製品は安価で取り扱う業者が少なく、流通しにくい状況です。

佐世保市では、石油製品であるプラスチックを焼却した場合の高い熱エネルギーに着目し、「サーマルリサイクル」の考え方に基づいてプラスチック製品を可燃ごみとして回収しています。そして、ごみの焼却による熱エネルギーを利用して、発電やクリーンセンター内の冷暖房など、資源の有効利用を図っています。

しかし、石油が限りある資源であることや、今後のリサイクル技術の向上により、「マテリアルリサイクル」の考え方を取り入れることが必要になるかもしれません。市では、今後とも資源物のリサイクルについて、調査・研究を継続していきたいと思ひます。

## 歴史散歩

佐世保独楽と「天下一」

450

(島地町)

童謡にも歌われているように、昔の子供たちのお正月の遊びは凧揚げ、独楽回し、羽根突き、かるた取りでした。「息長請文請比べ」の唱え言葉で知られる佐世保独楽は、中世の社会風習を色濃く留めている、生きた歴史の証人でもあります。その一つが息長く回った独楽の「天下一」の呼称です。

「天下一」を自称する風潮は、畿内では商工業が発達し、技能や技術を誇る自負表現として現れました。永禄2(1559)年10月の津田宗達「茶湯日記」に「ぬし天下一藤左衛門」とあるように、16世紀半ばから古文書に登場してくる表現です。「ぬし」は塗師のことです。



佐世保独楽は、「息長請文請比べ」と唱えて参加者がいっせいに自分の独楽を回します。ラッキョウ型の木の本体に菱形の鉄剣を打ち込み、撚り糸を巻いて回すのですが、撚り糸は、神社の注連縄と全く同じ作りです。「総」は回し紐の末端をほぐしてふさ(総)状にすることで、「助けあり」のルールのおかげで、総でたたいて独楽の回転を長くするので。

息長請文とは「私」の独楽が一番良く回る、つまり「天下一」と神仏に誓う意味です。中世から近世まで行われた起請は、熊野神社などが出す神文を書いた牛王宝印の紙の裏に神仏に誓う文言を書くのです。

なぜ佐世保独楽に中世の影が色濃く残るのかは謎です。(筒井隆義)

